

報告 (1999年～2005年)

ウラル学会研究大会

第26回ウラル学会研究大会

日 時： 1999年7月3日 (土)

場 所： 関西外国語大学

発 表： 渡辺 克義 (東京大学大学院)

フィンランド語の分格とポーランド語の生格

千葉 庄寿 (東京大学大学院)

埋め込み文の特性から見たフィンランド語の分析的使役構文

池田 哲郎 (京都産業大学)

北方ユーラシアの膠着語における格の機能

小泉 保 (関西外国語大学)

コミ・ペルミャク語の格体系について

第27回ウラル学会研究大会

日 時： 2000年7月1日 (土)

場 所： 静岡県教育会館

発 表： 佐久間 淳一 (名古屋大学)

フィンランド語における主格・属格・分格の付与について

西澤 龍生 (東京成徳大学)

タルトゥ大学史の予備論的鳥瞰

田代 直也 (関西外国語大学)

ドイツ語の属格補足成分に対応するハンガリー語の格について

池田 哲郎 (京都産業大学)

J. ロッツ流の構造分析と格：前後置詞・接続詞の構造

小泉 保 (関西外国語大学)

モルドビン語の対象活用について

第9回国際フィン・ウゴル学会議

日 時： 2000年8月7日 (月)～13日 (日)

場 所： タルトゥ大学 (エストニア共和国)

参加者： 池田 哲郎、石本 礼子、岡本 真理、菊川 丞、小泉 保、佐久間 淳一、
千葉 庄寿、西澤 龍生、松村 一登、早稲田 みか

報告 (1999年~2005年)

発表: 池田 哲郎

Conjunctions in the languages of Northern Eurasia

佐久間 淳一

The nominative and the genitive in the Finnish language

千葉 庄寿

Analytic causatives in Finnish: an analysis of the embedded predicate of *panna* 'put' and *saada* 'get'

松村一登

ESTMORF and Perl as corpus-linguistic tools for Estonian

早稲田 みか

Modal functions of Hungarian imperative in subordinate clauses

第28回ウラル学会研究大会

日時: 2001年7月7日(土)

場所: 学士会館

発表: 石本 礼子

ハンガリー民話の慣用句

小川 誉子美 (横浜国立大学)

ラムステッドと日本語—日本側の資料について

池田 哲郎 (関西外国語大学)

ハンガリー語の擬音語—コミュニケーションでの意味階層

大島 一 (一橋大学大学院)

ハンガリー語の持続的表現について—日本語の「テイル形」との対照による

小泉 保 (関西外国語大学)

モルドビン語の対象活用の形成について

第29回ウラル学会研究大会

日時: 2002年7月6日(土)

場所: 椋山女学園大学

発表: 江口 清子 (神戸大学大学院)

ハンガリー語の語順とアスペクト

大島 一 (一橋大学大学院)

ハンガリー語の過去時制マーカーと接動詞 *meg* における完了的意味について

鈴木 博之 (京都大学大学院)

バルトフィン諸語とサーミ語の子音階程交替について

菊川 丞

Lembitu から Kalevipoeg へ

第30回ウラル学会研究大会

日時： 2003年7月5日 (土)

場所： 関西外国語大学

発表： 鈴木 博之 (京都大学大学院)

フィン・サーミ諸語における家畜名の借用時期とその経路

Pintér Gábor (神戸大学大学院)

ハンガリー語の二重子音

松村 一登 (東京大学)

ウラル音声記号フォントとバルト・フィン諸語のテキストのコンピュータ処理

笹井 太輔 (東京大学大学院)

ハンガリー語の *igekötó* : 人称代名詞との区別

久保 英文 (東北大学大学院)

ハンガリー語における文法数の一致について

野瀬 昌彦 (東北大学大学院)

ハンガリー語とフィンランド語の様格に関する対照研究

第31回ウラル学会研究大会

日時： 2004年7月3日 (土)

場所： 東京大学山上会館

講演： Lars-Gunnar Larsson (ウプサラ大学)

Saami speakers in central Sweden : aborigines or new-comers?

—Some new arguments in an old controversy

発表： 大島 一 (一橋大学大学院)

ハンガリー語の所有接辞を含む後置詞について

倉橋 農 (京都大学大学院)

ハンガリー語の「動詞修飾要素」とは

江口 清子 (神戸大学大学院)

ハンガリー語における事象の状態化—経験と進行の意味解釈

戸口 佐知子 (ヘルシンキ大学大学院)

東ハンティ語・スルゲート方言の場所格の動作主としての機能について

石野 裕子 (津田塾大学大学院)

フィンランドの国家形成と東カレリア問題—イレデンティズムの変容に寄せて

池田 哲郎 (京都産業大学)

コメニウスにみえる言語教授法とヨーロッパ的理念

第32回ウラル学会研究大会

日時： 2005年7月9日 (土)

場所： 名古屋大学

報告 (1999年～2005年)

発表： 坂田 春奈 (東京外国語大学大学院)

フィンランド語の非定形動詞における主語標示について

千葉 庄寿 (麗澤大学)

フィンランド語使役構文における無生物項の解釈について

大島 一 (一橋大学大学院)

ハンガリー語の結果状態を意味する表現について

伊勢井 敏子 (東京大学)

日本人及びフィンランド人英語学習者の英語情動の認知と音響特性相関

田中 孝史

マリ語の正書法について

杉藤 真木子 (名古屋大学大学院)

戦争の記憶—フィンランドにおける戦争記念碑

第10回国際フィン・ウゴル学会議

日時： 2005年8月15日 (月)～21日 (日)

場所： マリ国立大学 (ロシア連邦マリ・エル共和国)

参加者： 池田 哲郎、井上 紘一、田中 孝史、千葉 庄寿、戸口 佐知子、早稲田 みか

発表： 池田 哲郎

Case structures in the languages of the Volga-Idil area from the standpoint of areal typology

千葉 庄寿

A corpus-based approach to Finnish causatives

戸口 佐知子

The information structure in ergativity of Surgut Khanty

早稲田 みか

On Hungarian preverbs